

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	松本大学松商短期大学部	整理番号	2-5-026
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	多チャンネルを通して培う地域社会との連携 ー地域社会で存在感のある大学を目指してー		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	住吉 広行		
<p>(取組の概要)</p> <p>今回応募した取組の概要は次の通りである。</p> <p>(a)大学での教育に地域社会が潜在的に持っている「教育力」を、アウトキャンパス・スタディやサポーター教育という形式で積極的に取り入れ、地域社会全体を学びのフィールドと捉えつつ、帰納法的な教育方式として活用しようとしている。</p> <p>(b)大学が持っている研究・教育などソフト機能を、</p> <p>①生涯学習の一環として公開講座・講演会・シンポジウムなどの形で、</p> <p>②教育機関や諸団体の学習活動に、出前講義、注文授業、講師派遣等に応じる形で、</p> <p>③ボランティア活動への積極的な参加などで、</p> <p>地域社会に還元しようとしている。</p> <p>(c)大学が持っている諸施設などのハード機能を地域社会にできるだけ開放し、地域社会の活力を引き出しながら、共同してその発展を図ろうとしている。</p> <p>このように、様々なチャンネルを通して大学をあげて地域社会との連携を積極的に図る取組である。これにより、学生の成長、地域住民とのネットワークの広がり等成果は着実に上がり、「地域社会において存在感のある大学づくり」に向かっている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、松本大学松商短期大学部の「地域を良く知り、地域の未来を担い得る、有意の人材を送り出す」という教育目標を実現するために、地域社会と大学との「知」と「教育」の相互交流を総合的にはかる取組であり、地域活性型取組の一つの優れた特色をもつ試みであります。大学と地域の関係を双方が果たすべき役割を理論的に整理し、①大学→地域、②地域→大学、③地域⇄大学のすべてのパターンの実践的取組を実現してきた実績を高く評価します。公開講座をサポーター教育のための人材発見の機会とするなど、担当者の高い意欲も評価できます。</p> <p>平成14年にはエクステンション・センターが開設され、大学と地域社会を結ぶ総合的な窓口の役割を果たさせていることも評価でき、こうした試みは優れた特色として、他の短期大学の参考になります。</p>			